

する9年生においても多くの生徒が受けていると思われず。

検査結果の対応については、二次検査未提出者や除菌治療未受診者等に対しては、受診勧奨が行われていると聞いています。

②町では、平成27年度より20歳から30歳代の方を対象にピロリ菌検査を実施しています。30歳以降の方については、胃がん検診を実施し、がん対策に取り組んでいます。

75歳以上の方に対しては、早期発見・早期治療ということでピロリ菌検査よりも胃カメラ検診を受けることが必要だと考えます。

③大町町における特定健診受診率は、平成29年度から令和2年度まで30%台で推移していましたが、令和3年度から以前からの取り組みに加え、受診者へ特典を付与する特定健診受け得キャンペーンの実施、勧奨通知の回数を増やすなどの効果により、受診率は40%

台に上昇しています。

今後も情報発信、受診勧奨、受診しやすい環境整備、特典の付与などの継続、特定保健指導の充実を図りながら、町民課と子育て・健康課で連携し、受診率の向上に努めます。

おおまちふるさと館について

北沢 聡

議員 ①オープンから3か月経過したが売上や来客数などの現状はどうかについて。

②週末などに朝市のようなイベントなどを開催して、ふるさと館のより一層の集客と周知をはかっているのか。

企画政策課長 ①本年2月のリニューアルオープン後の食堂と販売所を単純に昨年の同月比とした場合、オープンした2月は、購入者数で約6倍、売上金額が4・5倍、食堂売上金額では約4倍、3月が購入者数、売上金額が2・2倍、食堂売上金額が1・3倍、4月が

購入者数、売上金額が1・8倍、食堂売上金額が1・3倍となっています。

②リニューアルオープンを行ない、カフェコーナーの新設や、定期的にS/L前の駐車スペースを活用したキッチンカーの出店など、指定管理者の方で集客に繋がるイベントを開催してもらっています。

町では、今回の補正で計上していますが、区長会の説明時に意見もいただいております、まずは大町駅を活用した地域活性化サポート事業を活用し、大町駅から大町ふるさと館までを一体化したイベント事業を、今年の夏から年末に向け3回計画しており、商工会や大町ふるさと館指定管理者など関係団体と連携し準備を進めていくこととしています。



▲アンテナショップ大町ふるさと館

高齢化と少子化の同時進行について

江口 正勝

議員 ①町長の認識と対応策について。佐賀県トップの高齢化率と人口減に伴う少子化（ひじり学園の今年度の1年生は1クラス）の現状に対する認識とビジョンを知りたい。

②高齢者対策について。高齢者の安心・安全を守ることは当然のことながら、元気な高齢者の「生きがいの創造」も重要なテーマ。高齢者の経験や知恵を活かす仕組みづくりが必要と考えるが、構想や計画はあるのか。

③少子化について。少子化対策の基本は、子育て世代が「住みたくなる魅力的な町づくり」の推進にあると思うが、具体策はあるのか。

④関連する諸課題については、高齢者対策としては、余暇活動の充実のための施設（カラオケ道場、スポーツ活動など）の増設が必要。自前のスポーツセンターの